

## 関連イベント

### 1. ファイナリストによるアーティスト・トーク

ファイナリストが自身の作品や今回の展示について語ります。

9月16日(土)15:00-16:30 藤井 光、石川 竜一、田村 友一郎

9月23日(土)15:00-16:00 題府 基之、横山 奈美

会場:2F ライブラリー／定員:各回40名／要予約

### 2. グランプリ・アーティストによるトーク

グランプリ受賞者が出展作品や今後の制作に関する展望について語ります。

9月30日(土)15:00-16:00

聞き手:木村 絵理子(本アワード推薦委員／横浜美術館主任学芸員)

会場:1F カフェ／定員:40名／要予約

### 3. ファミリー・プログラム (対象:年長～小学校3年生の子どもとご家族)

ワークショップ: 9月23日(土)10:30-12:00

展示作品の解説を聞き、一番気になった、好きな作品に自分だけの賞をつくります。

ガイドツアー: 10月14日(土)10:30-11:30

親子向けにわかりやすく作品解説を行うツアーです。

会場:展示会場、2Fライブラリー／定員:各回20名／要予約

### 4. ガイドツアー

日産アートアワード事務局スタッフが、展示会場内でツアー形式の作品解説を行います。

9月29日(金)16:30-17:15

10月14日(土)13:00-13:45

10月21日(土)13:00-13:45

10月27日(金)16:30-17:15

定員:各回20名／申込不要(先着順)、ギャラリー入り口にお集まりください。

※全て日本語のみ

※参加無料

※出演者、スケジュールは諸般の事情で予告無く変更する場合があります。

※申し込み・詳細は、「日産アートアワード」公式サイトでの展覧会・イベントページをご覧ください。

または、本展受付のスタッフまでお声掛けください。

## 同時開催展示

「日産アートアワード」コレクション作品より、日産アートアワード2013の審査員特別賞を受賞した西野達の《ペリー艦隊》を、YCC ヨコハマ創造都市センターにて展示します。

会期: 9月18日(月・祝)-11月5日(日)

※施設利用状況に応じて休廊となる場合がございます。休廊日程はYCCのウェブサイトをご覧ください。

時間: 11:00-19:30(最終日は17:00まで)

会場: YCC ヨコハマ創造都市センター 1階ギャラリー(横浜市中区本町6-50-1)

入場: 無料

<http://yokohamacc.org/ycg/nissanartaward/>

# NISSAN ART AWARD

## 日産アートアワード 2017 ファイナリスト5名による新作展

2017年9月16日(土) - 11月5日(日) BankART Studio NYK 2F

主催 日産自動車株式会社

企画・運営協力 NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

協力 インターナショナル・スタジオ&キュラトリアルプログラム(ISCP)

展覧会協力 BankART1929、ライトアンドリヒト株式会社、PAP-design / カンビス合同会社

展覧会後援 横浜市

公式サイト: <http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/NAA/>

Facebook: <https://www.facebook.com/NissanArtAward>

Twitter: <https://twitter.com/NissanArtAward>

## 1 石川 竜一 Ryuichi Ishikawa

石川は、生まれ育った沖縄を中心に人々の暮らしや風景を写真に収めています。そこには出会った人々との濃密なコミュニケーションのプロセスや、沖縄の地域性や固有性が強烈に写し取られています。本展では、石川が暮らす部屋のなかの様子や、窓から見える光景を撮影した新作を発表します。玄関や寝室、風呂、ベランダ、台所といった身近な空間や、パソコンの中のヴァーチャルな空間、外の建物や空を飛行する軍用機や鳥の写真からは、石川が目にする沖縄の現在と日常が同じように並べられています。[今後の活動：フランス滞在で撮影したシリーズを11月11日から12月10日までアツコパルー(渋谷)にて展示。写真集も発売予定です。]

### home work

2017

サイズ可変／アーカイバル・ピグメント・プリント

## 2 藤井 光 Hikaru Fujii

さまざまな場所で、その地域固有の歴史についてリサーチをしたり、そこに生きる人々にインタビューを行い、過去と現代を繋げる視点を通じて、社会を形づくる制度について考察する映像作品やインスタレーションを制作しています。本展では、「日本人を演じる」というテーマで行われたワークショップの記録映像や解説文などを組み合わせた新作インスタレーションを展示します。参加者の持つさまざまな歴史認識や多様性に対する考え方や振る舞いが映し出され、作品鑑賞者にも問いを投げかける作品です。[今後の活動：2018年に国立国際美術館(大阪)で開催される40周年記念展で新作を発表する予定です。]

### 日本人を演じる

2017

サイズ可変／インスタレーション、写真、ビデオ(40分)

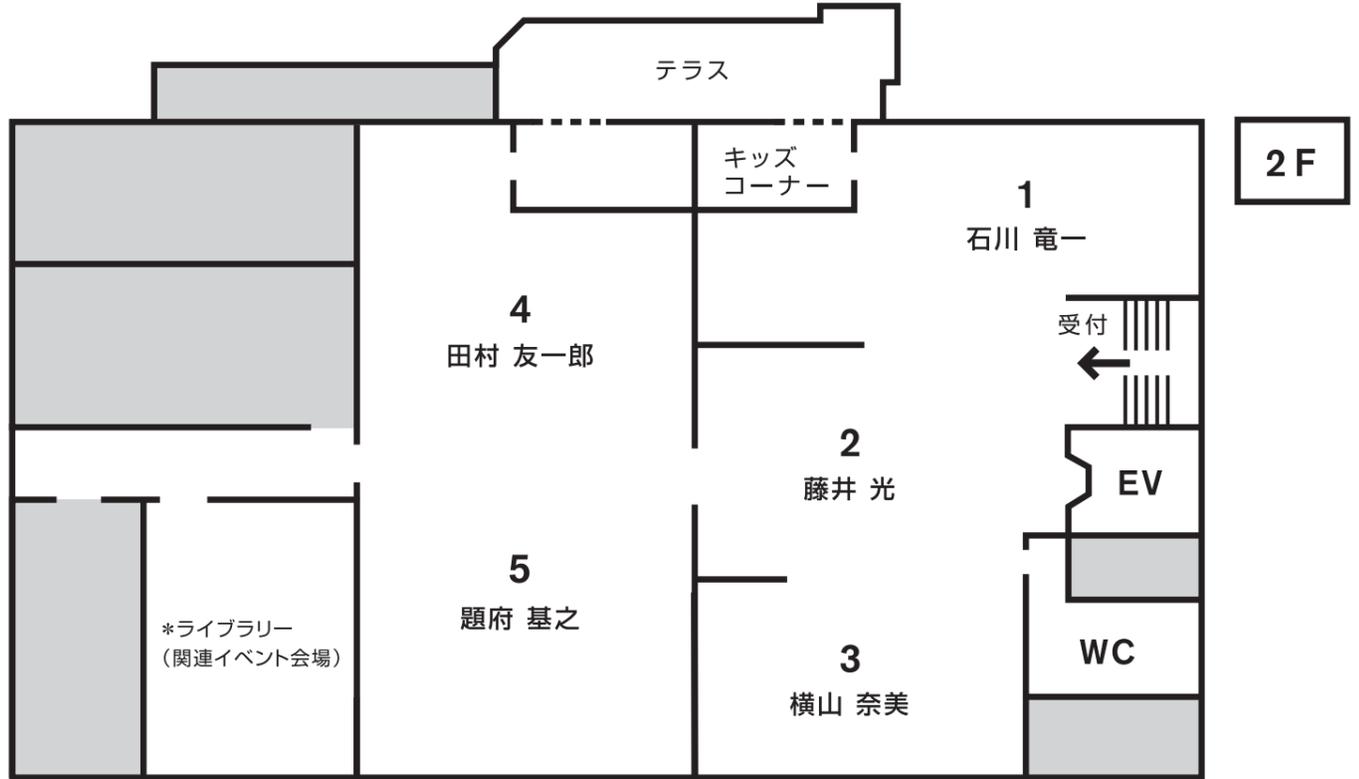
## 3 横山 奈美 Nami Yokoyama

横山は、絵画の歴史にも触れながら、普段は見過ごされがちなものの姿やその意味を描き出す作品を制作しています。本展では、近年取り組んでいるネオンサインをモチーフにしたシリーズより、新作を含む7点を発表します。制作は、横山がネオンの形をデザインし、実物のネオンを製造したあと、それをモチーフにして油絵の具で描くという方法がとられています。描かれているテキストは、西洋美術史の参考書にある一節に由来しています。また、男女の姿や十字架は、裸婦や宗教画など絵画の歴史において繰り返し描かれてきたモチーフを象徴しています。ネオンは華やかな光を放つ一方で、配電線やそれを支える構造体など、普段は注目されない裏側の部分が存在します。横山は光を放つためになくてはならないそれらの姿も一緒に描くことで、眼差しが向けられない存在やそれらが持つ価値も同じように絵画の中で表現することを試みています。[今後の活動：2018年にケンジタキギャラリー(名古屋)にて個展を予定しています。]

<b>Story</b> 2017 130.3 x 162 cm／麻布に油彩	<b>Sexy women</b> 2017 130.3 x 130.3 cm／麻布に油彩	<b>Crucifix</b> 2017 162 x 130.3 cm／麻布に油彩	<b>Sexy men</b> 2017 130.3 x 130.3 cm／麻布に油彩
<b>The history of Western painting</b> 2017 194 x 259 cm／麻布に油彩	<b>PAINTING</b> 2017 91 x 116.7 cm／麻布に油彩	<b>Window</b> 2017 100 x 100 cm／麻布に油彩	

※作品情報は、アーティスト名、作品番号、タイトル、制作年、サイズ(h x w x d cm)、素材・技法の順に記しています。

※展示作品にはお手を触れないようお願いいたします ※  部分の立ち入りはご遠慮ください



## 4 田村 友一郎 Yuichiro Tamura

特定の場所やものの文脈、歴史の関係性をつなぐ田村の作品は、映像や写真、パフォーマンス、インスタレーションなど、さまざまな表現方法を組み合わせて制作されます。本展では、栄光と終焉(終演)をテーマにした新作を発表します。栄光=グロリアという言葉から連想される80年代のポップ・ミュージックやクラシックの楽曲、高級車、栄華を誇ったギリシャ建築。さらに、終焉を思わせるサミュエル・ベケットの戯曲や、栄光からの転落など、さまざまな文化や表現、無数の情報が交差します。こうした要素は映像作品を含む作品内で連結し、その結末はBankARTの空間内に立体作品として展開されます。異なる時代や場所を繋げたこれらの要素は一見無関係なようでありながら、さまざま歴史の因果関係や、栄光と終焉、そしてそこからの再生の物語を紡ぎ出しています。[現在・今後の活動：2017年は、本展のほか、小山市車屋美術館での個展、ヨコハマトリエンナーレ2017の「ヨコハマサイト」に参加しているほか、ドイツのハンブルガー・バーンホフ現代美術館での展示への参加が予定されています。]

### 栄光と終焉、もしくはその終演／End Game

2017

サイズ可変／インスタレーション

## 5 題府 基之 Motoyuki Daifu

スーパーのお惣菜や調味料、お菓子の袋や箱であふれかえった食卓、布団や洗濯物で埋め尽くされた部屋。題府の写真には家族の姿や生活の様子など、一見すると乱雑ともいえる日常の光景が登場します。色とりどりの日用品と、それらに囲まれてひしめくように暮らす家族を写し出す一連の作品は、強いフラッシュにより撮影されることで色や奥行きが現実を離れ、ドキュメンタリー写真とは異なる非日常的な雰囲気醸し出しています。本展では、食卓に並ぶものの色や構図にフォーカスした《STILL LIFE》シリーズの未発表作品を含む作品群と、路上に落ちている潰れた空き缶を撮影した写真家、荒木経惟の初期作品を引用した新作を展示します。《STILL LIFE》シリーズからの表現を踏襲しながらも、もののディテールや質感をより際立たせ、日々見慣れた姿から逸脱した静物写真を発表します。

<b>STILL LIFE</b> 2013—2016 各86 x 65.7cm／発色現像方式印画	<b>Crushed can (Andy Warhol)</b> 2017 各130.5 x 87cm／デジタルCプリント	<b>Dinner with the family the day after anal sex</b> 2017 61 x 45.7cm／デジタルCプリント
---	---	---